

若者を考える、若者と考える

YOUTH SERVICE

VOL. 37

若者と支援者をつなぐ広報誌

YOUTH SERVICE VOL. 37

2020年12月25日発行

特集

コロナ禍の 若者のリアル



Catch Your Dream

夢をかなえる学校がある!

—普通科目とコース専門科目(希望者のみ)の履修で高校卒業資格を取得



平成29年新校舎のぞみ館完成

選べる4つの登校スタイル

Schooling×Style

- クラス制** たくさんの友達と接しながら学ぶ。
 - フレックス制** 自分で登校する時間帯を選ぶ。大学感覚で学ぶ。
 - 土曜日選択制** 指定の土曜日に登校。少人数の塾感覚で学ぶ。
 - 夏冬集中受講制** 夏休みと冬休みなどに集中して授業出席して学ぶ。
- ※それぞれの登校スタイルは途中変更が可能です。

選べる10の専門コース

Special×Course

- 進学 ●美容 ●調理・製菓
- 保育 ●IT ●アート
- 理容師・美容師(国家資格取得)
- 芸能マルチ(声優・ダンス・ミュージック)
- ドギー ●メカニック

※希望者のみ選択できます。※専門コースは毎年変更できます。※卒業単位に20単位まで認定できます。

盛んなクラブ活動が高校生活を彩ります

マンガ研究部/料理部/写真部/演劇部/茶道部/吹奏楽部/軽音部/声劇部/TCG部/テニス部/卓球部/バスケットボール部/フットサル部/総合運動部/リズムゲーム部/書道部/JS部/放送部/軟式野球部/バトミントン部/フィッシング部/その他
生徒会・保護者会・同窓会が連携して、在校生の活動を支援しています。

不登校相談支援センター なごみ教室

学校生活や人間関係等で不安感や緊張感が高まり不登校に悩む保護者や生徒を対象に、いきいきとした生活を送ることができるように、総勢3名のカウンセラーが支援します。

私たちは青少年育成を
応援しています!

通信制・単位制・普通科



京都つくば開成高等学校

転入学や編入学は、随時受付します。 <http://tkaisei-kyoto.jp/> 京都つくば

〒600-8320 京都市下京区西洞院通七条上る福本町 406 番

TEL:075-371-0020 FAX:075-371-0021

◆JR・近鉄 地下鉄烏丸線「京都駅」より北西へ徒歩8分 ◆京阪「七条駅」より西へ徒歩16分



平成27年4月京都府認可



映画を観る
ダンス
あつまれどうぶつの森とサッカーゲームよろしく
Hulu映画見てた

あつまれどうぶつの森とサッカーゲームよろしく

Hulu映画見てた

特集

コロナ禍の 若者のリアル

ゲームしてた。息がつまりそうでした

ドラマ「ぼくのいのち」

TWICEダンス練習

あつまれ

映画を観る

2020年に入り、世界的に流行した新型コロナウイルス感染症は、私たちの生活を大きく変えました。4月には「緊急事態宣言」が発表され、半年が経った今では感染対策のための「新しい生活様式」が定着してきたように感じます。今まで通りのコミュニケーション、余暇活動は「自粛」を受け、制限せざるを得なくなり、新しい価値観や交友関係が様々な場面で生まれています。

このような状況下で、「若者」にはどのような影響があったのでしょうか？

5月の段階では休校になった小中学校と高校が全国で86%（文科省調査）、またオンライン授業を実施している大学は97%（eラーニング戦略研究所）というデータが報告されています。

しかし、これらのデータやニュースで取り上げられていることは社会全体として捉えた「若者」の一部であり、環境の変化や動向です。では、「若者」の実際は？ コロナ禍に生きる若者の「リアル」な思いは若者ひとりひとりにあるのではないのでしょうか？

今回の特集では、コロナ禍における若者個人や若者の活動から語られるストーリーから、ひとりひとりの「今まで」と「これから」を示し、一般的なイメージだけではない若者の姿を探ります。

こうやこうどう〜
トーマスずっと見てた！

こうやして寝てあそんで充実してた。

コートコート アニメ バスケ

BTSの推しをながめた

泣いて、ねて、でんわしてた。あと笑ってた

家族と桃鉄

背景には、山科青少年活動センターで実施したロビー投票企画「閉館中にならして？」で利用者のみなさんからの回答を掲載しています。

ぷちメッセージ

変わるものと、
変わらないこと



京都市ユースサービス協会
専務理事
岩佐仁己

2020年7月に京都市ユースサービス協会の専務理事になりました。岩佐仁己です。よろしくお願いします。

私のユースサービスとの出会いは今からちょうど30年前までさかのぼります。

京都市の青少年担当に着任し、当時、京都駅近くの市内で1か所しかなかった京都市青少年活動センターに関わるようになったのが始まりです。そのときは、当協会も発足して2年しかたっており、ユースサービスの考え方も多くの人にとってはまだまだ新しく、思い返せば、私の仕事の大半はその普及だったのかもしれない。

そして、30年、青少年・若者をとりまく環境は様変わりしました。少子化はひとときも止まることなく、スマホ、SNSなどの通信手段は当たり前になり、そして今年に入ってのコロナ禍です。青少年だけでなく社会全体に課題はどんどん更新され、重層的にさえなっている現状があります。

このような中で求められるのは、青少年が主体的にそれら課題に向き合い、そして持てるエネルギーで新しい社会をリードする、そんな姿です。そのために必要なことは、様々な変化を受け入れつつも、彼ら彼女らのニーズに応えられるユースサービス、ユースワークの展開であり、それこそが時代を超えてなお本質的なことではないかと、思いを新たにしているところです。

contents

- 3 特集
コロナ禍の若者のリアル
- 8 高校生が作ったページ
高校生が「HSP」について考える
- 10 シリーズ
はたらく若者
- 12 TOPICS
農業体験事業を実施しました！
- 14 ユースかわら版
東山青少年活動センター
開館50周年記念事業 ほか

ユースサービスの理念

子どもから責任ある大人へと成長する青少年を支援しています。

家庭、学校、地域社会、職場ほか、青少年が自主的な活動場面への参加を通じて、社会と交わり、自身の興味や関心を豊かにし、必要に応じて、助言、情報、または多様な人的・物的資源が得られるような機会を提供します。

公益財団法人京都市ユースサービス協会の新型コロナウイルス対策について

京都市と協議を行い、新型コロナウイルス感染症対策ガイドラインを以下のような基本方針をもって策定しました。

- 新型コロナウイルス感染症の拡散状況を鑑み、若者の置かれている状況にあわせて対策を講じつつ、本来の若者自身の活動・成長機会が損なわれないための機会づくりを模索する。
- コロナ禍においての状況、またコロナにより明確になった若者の置かれている状況や、若者の声を社会に届けることに取り組む。
- スタッフ（職員・アルバイト・ボランティア等）個人の心身状態にも配慮するとともに、若者を始めとする利用者の健康面に留意し、利用者への協力依頼を含め感染症対策を講じつつ、日々の施設運営・事業運営に取り組む。
- 従来の方法にとらわれず、これまでの代替手段としてだけでなく、これまでをふりかえりつつ、かかわりをより良くアップデートしていくことを試みる。
- 委託・指定管理を受けている行政機関との情報共有・協議に取り組むとともに、市民に対する説明責任を果たせるようにする。

詳しい対応策に関しては、当協会ホームページをご覧ください。



コロナ禍の私たち

I・Hさん
(17歳)高校3年生
インタビュアー
谷勝礼奈さん
(高校3年生)



谷: 今回の自粛期間のことを教えてください。

I: オンライン授業が午前中だけだったので、時間の余裕があって趣味と娯楽に時間を使えました。

谷: 辛かったことはありませんか？

I: オンライン授業の最初の方は課題が多いが大変でした。

谷: 学校ではなく自宅にすることが多くなったと思うのですが、自宅学習は出来ましたか？

I: そこそこ出来たと思います。時間的な余裕があったので資格取得に向けて勉強ができました。正直、普通に通学している時より落ち着いて取り組めました。

谷: 学校が6月から再開したというところで、対面授業とオンライン授業どちらの方が自分に合っていると思いますか？

I: 好きなのはオンラインで、勉強の質を考えると対面授業です。

谷: 久しぶりの学校はどうでしたか？

I: 感染リスクを下げるため行事が縮小されたけど、新しい生活様式の中で自分たちなりに対応して青春が送れたと思います。

谷: 実際に何が縮小されましたか？

I: 文化祭がオンライン開催になって、学校のみならず動画を作ったりZoomで中継しながらイベントを楽しんだりしました。体育祭は規模が縮小して球技大会になりました。

谷: 行事が縮小された時はどんな風に感じましたか？

I: 文化祭は準備をしている時は楽しめるかな、と思っていただけども、実際見てみると先生方や実行委員の方が工夫されていて、感染しない上で楽しめることに重きを置いて下さっているのを感じて温かく思いました。

谷: この感染症の拡大によって、学生生活に関する不安やこれから求めていくものを教えてください。

I: 自粛期間中は、高3なので受験に対しての不安があり、オープンキャンパスもなかったので何もできることがなくて、ずっと大丈夫かなと感じていました。また、今は学校内でクラスターが起きないでほしいです。この時期は寒いので換気がされてなかったり、お弁当を対面で食べたりなど、慣れから来る甘さが見えて来ているので学校全体となって感染予防をしたいです。

谷: コロナ禍の若者として何かメッセージはありますか？

I: この危機を乗り越えるためには社会全体で歩みを合わせ、陰鬱な社会の流れがあるけれども、その中でも自分の趣味や譲れないものを持つていて欲しいです。



K・Hさん
(19歳)大学1年生
インタビュアー
谷勝礼奈さん
(高校3年生)



谷: 自粛期間中のことを教えてください。

K: 今は大学に週1回と月2回の授業のため通っているけどやっぱり遠くて、オンラインで授業受けるのがやっぱりいいなあっていう気持ちと、友達と作れないから辛いつついうのがあって良いところも悪いところもあるって感じます。

谷: 自粛期間中に楽しかった事はありますか？

K: うーん、楽しかった事は特になかったですね……。

谷: 確かに新しい学校生活を全く過ごせていませんもんね。辛かったことはありましたか？

K: サークルがなかったたので友達が全く大学内にいなくて、情報交換が出来ないから、課題がとても多い時それを友達と助け合いながら出来なかったことが辛かったです。

谷: 高校から大学入学までの時間でコロナの影響を受けたと感じる場面はありましたか？

K: 2月からバイトを始めたけれど、パートタイムの方しかバイトに入れなくなりました。また、入学式がなくて、大学のオリエンテーションも1日ある予定だったけど、1時間で終わってしまいました。

谷: 現在はそのバイト先でバイトをされているんですか？

K: 今もしています。けど、シフトに入っている量はとても少ないです。他の売り場に派遣されて働いていますが、月に2〜3回です。

谷: この自粛期間中は何をして過ごしていましたか？

K: 自分でも何してたんやろって感じで、あまりこれしてたつてものが無かったです。

谷: 私も自粛期間の記憶はあまり残っていません。来年からキャンパスに通って対面授業ができると思いますか？

K: ずっとこのまま対面とオンラインの併用な気がします。

谷: 私もそんな気がします。毎日大学に通いたいと思いますか？

K: はい。先生に直接質問したくても、その先生のメールアドレスしか知らないことがあるし、月2回しかない授業は友達と別れるときに、また1ヶ月後と思うと寂しい気持ちになります。やっぱり毎日通いたいなあと思います。

谷: この感染症の拡大による学校生活の不安を教えてください。

K: 対面でやる予定だった取っていた授業が急にオンラインに変わったりなど、対面の授業があまりないことです。

谷: 自粛期間が明けても大学にあまり行けてない状況なんですね。今後の学生生活で1番求めている事はありますか？

K: 友達がいなくてもっと大学に行ってもっと友達を作りたいです。



実際にこのコロナ禍を過ごしてきた若者4名に、どのようなことを感じたのか、お話を伺いました。1〜3段目は、インタビューを受けた若者と同年代の高校生が対談形式でインタビューしてくれています。

安藤さん
(15歳)高校1年生
インタビュアー
坂本 帆花さん
(高校1年生)



坂: 安藤くんのお家は飲食店をやってるやつ？

安: そうや。居酒屋してる。

坂: じゃあ、そういった家業のことも含めて、4月から今までのコロナの影響で変わったと思うことはなに？

安: うーん、やっぱり家業のことかな……。お客が減ったのはもちろん、宴会はもうとと減った。

坂: あーなるほど。宴会が減ったのは居酒屋にとつて大きいダメージやな。それを安藤くん自身が感じることはあった？「お小遣い減った」とか。

安: お小遣いは減らへんかったよ(笑)でも絶対お店の収入は減ったやろうし、親に「無駄遣いせん」といってねって言われたりしたよ。でもそのくらいやな。ただ何より、俺自身のお金の価値観は明らかに変わった。無駄遣いせん」とつて自分で思えたり、お金の大切さをここ最近でより感じるようになった。失って初めてその大切さに気付くんやなあと。

坂: おお！ それはいいことやな。コロナでいいことも悪いこともあったんやね。じゃあ今度は学習面について聞こうと思う。安藤くんは医者を目指してるんやな？

安: そうや。坂: それならなおさら勉強を重視してると思っけど、4月からの勉強はどうだった？

安: 環境はめっちゃ悪くなったよな。学校に行けへんかったりとか、リモート授業もあんま集中できひんし。でも、勉強の意欲はコロナのおかげで上がったよ。

坂: え、なんで？

安: 毎日何名が亡くなったとかニュースで見るたびに、医者になって人を救いたいっていう気持ちが増したから。がんばって勉強して立派な医者になるつてコロナのおかげで思えた。だから前よりさらに勉強の意欲は上がったし、勉強する時間も増えたかな。

坂: 素敵やなあ。がんばつてな！ 応援してんで！

安: 総合的に言ったら、憎いとまではいかんけどやっぱりコロナのことは嫌いや。学校の行事は無くなったし、しょぼくなったし。プラスのことでもちろんあったけど、マイナスのことの方が圧倒的に多かったかな。

坂: そりやそうよな。コロナのおかげで良い方向に価値観や気持ちが変わったとはいえ、やっぱりコロナがない方が学校生活は楽しいもんな。

安: まあでも、なにを言ってもコロナウイルスが消えることは無いし、この現実と一緒にがんばっていかないと。坂: その通りやと思っわ。

くまさん
(20歳)大学生
元ボランティア



僕が1年生の終わりの春くらいにこういう状況になったので、ほぼ1年間は大学生を経験したことになります。授業受けて、サークル行って、バイトしてという典型的な大学生生活でした。

コロナが流行して、それまで通りの活動ができなくなりました。結果的に時間ができました。今までのように、学校の勉強やバイト、サークルとは物理的に距離を置くようになつて、気づかないふりをしてきた気持ちがいっぱいありました。これは本当にやりたいと思つてやっていたことになつたんだと。以前までの行いをリセットして、新しいことをやれる状況にはなりませんが、いざ「自分は何がやりたいんだろ」と考えてみても、なにも思いつかなかった。状況的に人とも会えないし、家で一人で悶々としていました。「なんか違うな」「なんかやらない」と思ふことを探そうとしていたけど、考えれば考えるほどどれもそれに値しない気がして、「どうしたらいいんだろ」「自分がやることは全て暇つぶしじゃないか」と思えてきて苦しかったです。

その頃ある本を読んで、「有意義なことなんてそうそう見つからない、なら最初からそう割り切つてしまえばいい」と思えるようになりました。「なんか経験してみてもいいんじゃないか。とりあえずいろんなことやってみよう」ということの1環にボランティアがありました。

その中でも指針を見つけたかったんで、いろんな人に出会っている人な人生を知れる活動がいいな思いました。やませい(山科青少年活動センター)でのカフェボランティアを選んだのも、ごく一部の世界だけにいる気がした自分にとって、今まで出会えなかった人と出会えて話したいなと思つたからです。

コロナ流行以前は、生活のいろんな場面で急がされていた気がしますが、「社会的にこうしなきゃいけない」というルールに従つたけど、今は必ずしもそこに従つてて正解というわけでもないと思うようになりました。小さな一歩かもしれないけど、新しい環境にぜひ踏み出してみたい、いろんな人と知り合えて、めっちゃくちゃ大きな収穫があったと思います。



「withコロナ」時代の若者のこれから

「新しい生活様式」で暮らす今の時代は「withコロナ」と言われることも多くなってきました。「withコロナ」で若者の生活や活動も変化しています。コロナ禍からの「これから」を見据えて活動を行う、学生団体「FREE京都」さんにお話を伺いました。

Oさん (大学4年生) Mさん (大学2年生)



FREE京都

学生アドボカシー・グループ『高等教育無償化プロジェクト』。かけがえのない人生を豊かにする学びを、経済的事情に左右されず、あらゆる人が権利として享受できる、未来ある社会を実現するために、すべての人への高等教育の無償化を目指します。
HP: <https://freekyoto01.wixsite.com/info>
Twitter: @FreeKyoto

新型コロナウイルスの流行が始まった今年春頃は、FREE京都ではどのような活動を行われましたか？

「新型コロナ感染拡大の学生生活への影響調査」として大学生を対象にしたアンケートを4月21日から5月いっぱいまでWEBを通じて実施しました。全国で590件、そのうち490件は京都で回答が集まり、全国では5人に1人、京都では4人に1人が退学を考えていることが明らかになりました。その後、アンケート結果を反映した陳情書を京都府議会・京都市議会と京都府・京都市に提出しました。

今回のアンケートをなぜ、どのような思いで実施されたのでしょうか。

FREE京都は2019年11月に、「高等教育の無償化」を政治の中で変えていくことを目的に設立されました。コロナ禍以前から学生の実態をいろんな人に知ってもらいたいということで「バイトをしすぎて大変になっていませんか?」「奨学金をどれくらい借りていますか?」「将来の不安」などアンケートを取り、国や行政に働きかけていました。コロナ禍になり、3月の時点で多くの大学がオンライン授業に切り替えるという方針が出て、さらに学生のバイトがどんどん切られている現状が明らかになりました。今まで以上に苦しんでいる学生がいるのではないかと思います、コロナ禍における学生の声を伝えようと実施しました。

結果は、オンライン授業への不満・学費が払えない・人と会えなくて精神的にしんどいといった声が多かったです。地方から来た学生は周りに頼る人がいないことも多く聞かれました。また新入生は、バイトが見つからないし、そもそもバイトをしていなかったりで休業補償が受けられません。特に新入生の声は聞いていて辛かったですね。

FREE京都として、コロナ禍においてこれからの若者はどのように生きていくと思われませんか？

現在の学生は学びの権利を享受できていない状態です。コロナ禍で、ほとんどの学生がこの問題に突き当たったという実感がありません。学費が払えずに「これからどう学生生活を送ればいいのか」と悩む学生は、コロナ禍だから起こった問題ではなく、もともと社会で存在していた問題ではないかと気づいた方も多かったのではないのでしょうか。

学生には自身の「教育の権利」「学費の問題」について考えてほしいし、社会には「教育に予算をかけることがなぜ大切なのか」ということを考えてほしいと思います。

今回のコロナ禍で、どういった学びが享受できなくなったのかをもう一度問い直す必要があるのではないかと。また大学と学生の双方で、学生が学べるように検証されていくべきではないかと思っています。

また今後の社会を展望していく上で、新型コロナウイルスの対策だけでなく、学生の学びを軽視してきたこれまでの社会を変えていかないと、根本的な解決にはならないのではないかと思います。

FREE京都は、これからも学生の実態を社会に届けるということを大事にしていきたいと思っています。



コロナ禍の若者のリアル まとめ

個人のリアルな言葉を通して表れた、コロナ禍の時代を生きる若者の「今まで」と「これから」は、読者のみなさまにどのように写ったのでしょうか。

インタビューでは、友達が作れなくて寂しいという大学1年生の声もありましたが、学校の休校に合わせて自分のペースで勉強ができたという声や、コロナ禍で自分の生活を見直せた、夢に向かってがんばる気持ちが増したというエピソードもあり、状況に合わせてポジティブに捉えている若者も多い印象を受けました。

FREE京都さんからは、コロナ禍が落ち着いたとしても、社会全体で大学生の学びについて考えていくべきだと、大学生当事者だからこそ実感している活動の思いを伺いました。

若者それぞれで変化した環境、受け取る感覚はさまざまですが、若者も社会の一員として、このコロナ禍で声を上げ、感染対策をしながら、より生きやすくなることを目指して行動しているのは共通だと感じます。

今回の特集が若者の「リアル」の全てではありませんが、ニュースやデータ上だけではわからない若者の姿を少しでも受け取っていただければ幸いです。

編集担当グループ



衝撃的だった2020年の上半期。京都市ユースサービス協会では、若者は何を感じ、どんな過ごし方をしていたのか、みんなで語り合いたいという思いのもと、9月27日(日)に『ユースシンポジウム2020“この半年を語ろうぜ!”』を実施しました。イベント当日に話されたことや、事前企画として『自粛中のモヤモヤ・叫びをきかせて!』と題し、各青少年活動センターのロビーで集めた声をご紹介します。また、シンポジウムの参加者の感想も掲載しています。

こんな時期だからこそ、人とのつながりを大切にして生活したい意欲が増した

あたりまえのように外出していたことが幸せだったな~

はじめはけっこう楽しかった! 学校の先生が怖いかわからんから手抜きづらい

たっぷり時間ができたので楽しいこともいっぱいありました

普段やれないことやれた!

学校むり
部活むり
家族むり
すべてがめんどい!
受験生やめたい!
やせたい

ギリギリまで寝ててもよかったし神まじずっとリモートがいい

家の時間は鬼の暇!

JK最後の夏 自分たちの手で楽しむー!

家族という時間が増えてイライラすることいっぱいあったよおお!! (すべて自分が悪かったけど)けど大好きなラジオ聞く時間あって正直うれしかったけど勉強やばい!!

やることを見つけるのが難しいけどそれを考えるのはけっこう楽しい

勉強せんとあかん けどひま

マスクをはずして遊びたい

規則正しい生活を送ることができなくて自分の自己管理能力の低さに落ち込んだ

大きな声で歌いた〜!!

永遠に眠った

学校はじまらんくていい

オンライン授業で楽しい

スタート失敗した!

宿題多くて、うざかった!

卒業前の行事が中止に……コロナ許すまじ

卒業式&入学式まともにやってない

休校中→学校はじまってほしい 今→休みたい!

クラスLINEできたけど誰か知らない

課題疲れ

HOME

SCHOOL

社会がコロナうるさい

バイトに追われつつも、好きなことができる生活! 悪くない

会いたい人や行きたい場所に行けなくて、今まで普通に暮らせていた幸せを改めて感じた

過去をうじうじ悩むより、未来を見て歩きたい

コロナぶっこわす!

推しに会えた!

ピエンピエンピエン
ピエンぴえんぴえん
ぴえんぴえん

テレワーク、通勤しなくてよい

神様推しに会わせてください

早く以前のように活動したいなあ

早く落ち着いてほしい

活動メンバーに会えなくてさみしい

オンラインでの会議“シーン”の時間ができる

先輩からアドバイスをもらっても、コロナの前と後では条件が違うので安心できない……

就活を前にして、在宅でもできる仕事に興味を持った

ユースシンポジウムに参加して感じたこと

- 密になってはいけなく、密になる大切さ。
- 活動は私にとって最大の学び場であるけれど、こうしてコロナ期間を皆で乗り切ろうと考える機会も最高の学びだと気付くことができました。
- 仕事は生活するうえで必要。でも人生の全てではない。一度働いてみて他に楽しいことが見つかったらそちらを選択してあげたい。
- こんなにいろんな経験を持つ人たちと交流を持てたのがとても貴重でした。
- 何かを進めようとする時にもコロナの影がチラつく中、今まで以上に何かを始めようとする力があるのだと思います。

ユースシンポジウム2020の報告はコチラ





高校生が「HSP」について考える

高校生が作ったページ

HSP

今回私達は、社会問題をテーマに調査することになりました。話し合いの結果、HSP（ハイリー・センシティブ・パーソン）について調べていくことになりました。HSPはまだ社会的にあまり浸透しておらず、病気ではなくあくまで生まれ持った気質であるため、あまり理解が得られていないのが現状です。この記事を書きかけに少しでも認知度が上がり関心を持って頂けると幸いです。

HSPってなに？

- Highly Sensitive Person 「人一倍繊細な人」を表します。エレイン・アーロン博士によってつけられた「人の気質」を表した名称で、これには5人に1人が当てはまるといわれています。特徴として、
- 思考を深く巡らすことができる
 - 感情豊か
 - 細かいことを感じ取りやすい
 - 人混みが苦手
 - 小さなことでもよく気付く
- などが挙げられます。

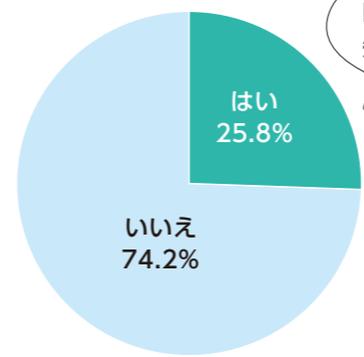
HSP診断テスト

自分に当てはまるのか気になる方は、次の10項目にYesかNoで答えてください。

- 1 落ち込んでいる人がいると、自分も落ち込む
- 2 一人の時間が必要
- 3 笑い声が聞こえると自分のことを笑っているのではないかと思う
- 4 一人で考えることが好き
- 5 周囲が騒がしいと不快に思う
- 6 大きな音などに敏感
- 7 一度にたくさんのかたを頼まれると混乱する
- 8 アートや音楽に感動する
- 9 明るい照明・きつい匂い・服の繊維などによる刺激に敏感
- 10 作業中に人に見られていると緊張して上手くできない

Yesが5個以上ある場合、HSPの可能性が高いです。また、Yesの数が少なくても、強くあてはまるものがあれば、HSPの可能性がります。△簡易的な診断です。

HSPって知ってる？



私たちが考えたHSPとの向き合い方

自分がHSPだと感じたら
HSPの人が生きにくさを感じる原因の一つに、「他人のマイナスイメージを受け取ってしまう」ということがあります。向き合い方の一つとして、怒りや悲しみを感じた時に、一度その感情が、「誰の」感情かを考える。という方法があると思います。自分からマイナスイメージが湧いたのか、それとも他人からマイナスイメージを受け取ったのかを一度考える。他人からの場合は、その感情を自分と切り離して考える。そうすることで、他人のマイナスイメージと距離を置くことができ、生きやすさにつながるかもしれません。

まわりにHSPの人がいたら

- HSPの人が望む対応の一例としては……
- 些細なことで落ち込んだりしてしまったり、落ち込んでいる時はそっと一人しておくか励ましてほしい。
 - 頭の中でどうすればいいか考えている時はあまり話しかけないほしい。
 - 長時間一緒にいる時は一人でいてほしい。
- などがあるそうです。気遣いさえも敏感に感じ取るため、HSPの特徴を理解し見守ることが大切です。

まとめ

今回はHSPについて記事を書きました。アンケートの結果を見て私たちが予想していたよりも、かなり多くて驚きました。また、どこで知ったのかという問いには、インターネットやTVなどが多く挙げられました。HSPの人は5人に1人とも言われており、この繊細な気質を持っている方は、皆さんの周りにもたくさんいます。実は私もその一人です。だからこそ、HSPの繊細さで悩んでいる人が少しでも減るように、という思いでインタビューしました。

最後に、HSPだと感じている方へのメッセージです。HSPの人は周りが気になって集中できなかったり、人間関係に疲れやすくなることがあります。そして、その繊細さから、自信がなくなってしまう場面もたくさんあるかもしれません。しかし、ぜひ長所にも目を向けてみてください。感覚が鋭いからこそ、他の人には感じられない喜びを感じることができ、人の気持ちがよりわかるからこそ、相手に気遣いをすることができます。そんなプラスの面を見るようにするだけで、毎日が少しずつ明るくなると思います。(高校生編集担当者)

はたらく若者

第8回



山本 友菜さん 21歳
ドラッグストア勤務

終身雇用制度は崩壊し、働き方が大きく変化している今日。一人ひとりで見ると、よくある話かもしれませんが、そのはたらく姿から現代の若者のすがたがあぶり出されるのではないか。「はたらく」から若者の今を見つめます。

今の仕事について教えてください。

ドラッグストアで販売のお仕事をしています。今年の10月に転職をして入社したばかりです。今は仕事で必要な登録販売者の資格をとるための勉強も頑張っています。試験は来年8月に受験予定です。医薬品の品出しをしながら覚えたり、休みの日にはセンターの自習室で勉強したり……。登録販売者の資格は2年間の実務経験も必要なので、資格取得より先に実務経験を積みながら働いていて、今の職場にこのタイミングで転職してよかったなと思っています。

なぜこの仕事に転職しようと思ったのですか。

前職はスーパーのレジとサービスカウンターでの業務を行っていましたが、もっと仕事の幅を広げたくて転職を決意しました。今の仕事は接客、品出し、レジ、電話対応など、前職に比べて幅広いお仕事をしています。前の職場では残業が許されなかったので、必要な残業が認められて、残業代も支払われる今の職場はありがたいです。レジや電話対応、ギフトラッピングは前職の経験を活かしています。営業時間は今の方が長いけ

う思っています。でも、将来的には結婚もしたいし幸せな家庭を築きたいですね。

あなたにとってはたらくとは。

生きていく上で必要なこと。生活していくため、お金を貰うために、それに見合う内容をやり遂げること。でもただ働いただけじゃつまらないからその中で自分がやりたいことを見つけて、楽しくお仕事することが大切な気がします！

コロナ禍での転職でしたが、何か苦労はありましたか。

最初は調剤薬局を志望していたんです。もともと事務をしたいと思っていて、2、3社受けたんですが、落ちちゃって。倍率が高いんですね。1名だけしか採用がなくて、でも、やっぱり経験者が優遇されるから。それで、もう少し視野を広げた時に目を付けたのがドラッグストアでした。方向転換してから受けたのは今の会社が1社目です。結果としては、今までの経験も活かせるし、資格も取れるし、切り替えて転職活動をしてよかったなと思います。今はすべてが勉強だし、チャレンジ。楽しんです。でも、「一方で「社員」としての責任も感じています。登録販売者の資格を取る前提で入社したこともあって、「早く資格取らなきゃ」とも思うし、「資格が取れて当たり前」な雰囲気もあるので、それがちょっとプレッシャーかな。働きながら勉強するのは大変。でも休みの日に「やるしかない！」って頑張っています。センターの自習室も利用させてもらっています。

何のために働いていますか。

自立したいからです。親の手を

ど、思ったより負担も少なかったし、前の職場もソフト制だったから、それはあんまり苦じゃないかな。

今年は新型コロナウイルスが流行していますが、何かその影響はありましたか。

あんまり感じないかなあ。緊急事態宣言が出された頃は前の職場で働いてましたが、私自身はあんまり影響を感じなかったですね。店舗の売り上げは増えていたんじゃないかな。普段の業務に加え、カートや買い物かごの消毒をしたりもしていました。あ、でもお店で使われていたビニールカーテンがペラペラのフィルムで……。それは「大丈夫かな」ってちょっと不安でした。破れたり、カーテンをくっつけてくる人がいたりしたので。普段はバイクで通勤してたので通勤中の「コロナの不安はなかったですが、雨の日も意地でもバイクで通勤してました。やっぱり電車は不安なので……。親に送り迎えをしてもらった日もありましたね。今の職場でも、「コロナの不安はありません。前の職場よりお客さんと近距離で1対1で話すことが多いし、時々マスクをしていないお客さんもいますし……。」





7月 肥料撒き



本格的な夏になって更に青々と成長した稲に、みんなで肥料をやりました。手動の肥料撒きの道具を担いで、稲の間を縫うように進んでいきました。肥料撒きのハンドルを回しながら慣れない田んぼの中を歩くのは、至難の業。バランスを崩してこけてしまわないように、ゆっくりゆっくり慎重に行いました。



9月 20日 稲刈り



肥料撒きから2か月が経ち、いよいよ収穫だ! と思った矢先、山本さんから「稲がウンカ(農業害虫)にやられている」との知らせが。そこで急遽、予定より1週間早めでの実施としました。思わぬアクシデントでしたが、自然を相手に活動すると、こういうこともあるのだなあ……と勉強になりました。



ウンカイメージ
Brett Hondowによる
Pixabayからの画像



TOPICS

農業体験事業を 実施しました!

@北青少年活動センター

「自然」がテーマの北青少年活動センターで、今年度から新たな事業が始動しました。その名も、『若者農業体験隊 米 come CLUB』——なんだか「ド素人の私でもイケそうちゃう!？」と希望の光を与えてくれるような、素敵なネーミングだと思いませんか? そうです。このプログラムは、農業経験ゼロだけどちょっと興味はある……というみなさんに気軽に参加してもらえるものとして、地元の方々にご協力いただきながら実施しました。

このページでは、9月までの約半年間の『米come CLUB』の様子をご紹介します。



この事業のメインは、京都市左京区の大原にある田んぼでのもち米作りです。8月を除く5月から9月のあいだ、月1回のペースを基本として、農業に興味がある若者や自然に触れリフレッシュしたい若者たちとともに、農作業に取り組んできました。
毎回の実施にあたっては、株式会社大原アグリビジネス21代表取締役で、農業もしておられる山本壽典さんにご指導・ご協力いただきました。

自然豊かな
京都大原で
もち米作り

9月 27日 収穫祭



待ちに待った収穫祭! 収穫したもち米で作ったお餅を、あんこ、きな粉、しょうゆ、納豆など、思い思いのトッピングでいただきました。つくたてホヤホヤのお餅は、美味しいのはもちろんのこと、ツヤツヤしてとってもキレイでした!



5月 田植え



センター休館期間中からのスタート。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、この日はユースワーカーだけで田植えを実施しました。ワーカーも、ほとんどが田植え初体験! ムニユっとした田んぼの土独特の感触を味わいながら、1つ1つ大事に植えていきました。



6月 草引き



ここからは活動に応募してくれたみんなも参加! 小さかった田んぼの苗が、1か月で膝の高さにまで成長しました。苗と苗の間に生えた雑草を、腰をかがめながら抜いていく作業は、思った以上に大変。頑張ったあとは、シソを始めとする大原の食材を使った美味しいお弁当でおなかを満たしました。



田んぼが思ったより
深くてめっちゃ

米農家に必要な費用等、
山本さんのお話が、
特に印象に残った

参加者アンケートより

様々な動物や植物と
一緒に生きていることを発見した

草木染も初めての
経験だった

冷たい川で遊ぶ時間もあって、
最後まで楽しく活動できた

参加したみんなにとって、「ちょっとやってみたい」の気軽さで、農業に触れ、大原の暮らしに触れ、豊かな自然に触れられる、貴重な時間になりました!





『新型』コロナウイルス感染症の影響で、練習の成果を発表する機会がなくなりました。卒業公演ができないなど、グループ活動の節目として発表会をしたいという声を、休館明けのセンターで聞くようになりました。中央青少年活動センターとして何か応援できることはないかと考え、「自主活動応援事業 CHEER」としてノンジャンルでの発表会を実施することにしました。また、同じタイミングで自分の活動の発表をして、いろんな人が交流できる機会をつくりたいという青少年との出会いもあり、協同で10月18日(日)に実施することができました。当日は4グループが参加し、感染症の対策をしながらの開催となりましたが、盛況のうちに終わりました。

『プチなんでも発表会』

東山青少年活動センター
開館50周年記念事業

昭和46年(1971年)2月1日、東山青少年活動センターの前身である「東山青年の家(勤労青少年ホーム)」が開館しました。当時の建物は東大路七条を少し上った区役所の裏手(西側)にありましたが、2001年に現在の総合庁舎北館の2階に移転し、名称も青少年活動センターに変わり、リニューアルオープンしました。旧庁舎で30年、新庁舎になって20年。2021年2月に50周年を迎えるにあたり、記念事業を開催します。



思い出の写真を集めています！

旧青年の家や新庁舎での思い出の写真を集め、モザイクアートにしてロビーに展示中です。利用者の皆さんには、思い出の写真(新庁舎でも大歓迎)にコメントを寄せて応募いただいております。

その他、情報誌『ヒガシガシ』50周年記念号の発行や、ものづくりワークショップ、2001年のリニューアルオープン時に記念事業として実施された「東山ダンスフェスティバル」に続くダンス関連イベントを予定しています。

いずれも、詳細はホームページをご覧ください。
<http://ys-kyoto.org/higashiyama/>

10月25日(日)『まちろゲイニング』を実施

『まちろゲイニング』は、チェックポイントごとの得点が書かれた地図を手に、3〜4人のグループで制限時間内にできるだけ高得点になるようなルートを考えて回りながら、チェックポイントで写真を撮る

広報紙に関する「意見」「感想」は「すけいん」へ



影、総得点を競うスポーツイベントです。下京青少年活動センターでは昨年度より開催しています。当日はとてもいい天気です。参加者は28名で、小学生から50代までと、とても幅広い年齢層の方からの参加がありました。参加者からは「京都のまちの奥深さに驚いた」「たくさん歩いて走って、いい運動になった」などの声があり、この時期だからこそ、心も身体もリフレッシュできる充実した1日になったのではないのでしょうか。次回は2月21日(日)です。たくさんの方のご参加お待ちしております！



ロビーでセッション

北青少年活動センターのロビーには、カホンとエレキギター、アコースティックギター、ベース、キーボード、ウクレレと楽器が多く置かれています。時折、誰か1人が何かを弾き始めると他の楽器が弾ける人や音楽に興味がある人がぞろぞろ集まり、セッションが始まる場合があります。7月のある日には、近隣高校の軽音部と楽器が弾けるようになりたい大学生との間で交流が生まれ、ギターが弾けるユースワーカーも混ぜてもらって椎名林檎「丸の内サディスティック」を一緒に演奏しました。

その時、カホンで参加した大学生は、セッション後、「あんな風に弾けるようになりたい」と、足繁くセンターに通ってギターやベースの練習をする日々を過ごしていました。あの日に偶然居合わせたことにより、趣味が広がったといえる出来事。このようなことも、青少年活動センターのロビーでは起こるんですよ。



南センター
寄付報告

2018年に50周年をむかえた南青少年活動センター。50周年記念事業のひとつとして立ち上げた寄付事業『ロビー喫茶一口マスター』で、集まった寄付金を活用した喫茶コーナーの改修が、この秋に若者たちの手をかりながら、無事に終えることができました。新しい喫茶コーナーを活用したプログラムは、コロナ感染予防の対策を講じながら、この10月より試験的にとりくみはじめています。

<p>寄付協力</p> <p>地域の企業や個人のみなさまにご協力いただきました。</p>	 <p>日本新薬 日本新薬株式会社</p>	 <p>大和電設工業株式会社</p>
 <p>和多加印刷株式会社</p>	 <p>河北印刷株式会社</p>	 <p>株式会社山公産業</p>

九条塔南自治連合会 御一同様

天野 広一様

谷口 多美子様

横江 有子様

セルクル女声ハーモニー 御一同様

松井 憲昭様

植村 友博様

南青少年活動センター
ホームカミングデーご来場の皆様

岸本 泰昌様

松村 幸裕子様

制作協力

株式会社 三正
建設塗装全般KC 川田
有限会社 山田木工所



発行：公益財団法人 京都市ユースサービス協会
〒604-8147 京都市中京区東洞院通六角下ル御射山町262
TEL: 075-213-3681 FAX: 075-231-1231
E-mail: office@ys-kyoto.org HP: http://www.ys-kyoto.org
印刷：株式会社谷印刷所 デザイン：株式会社オム